

木知原の今昔!

46号: 24・8・30

“今昔”も江戸から明治へ

時代替わり

明治シリーズ[i]

“竹やりでドンと突き出す二分五厘”

農村では「散切り頭」も見られず、いきなり「明治だ! 政府が!」と言われても分からなかったと思う程明治維新は急激変であった。

農村が明治政府(政治)に関心を持つきっかけは「地租改正」への不満や反発からと思う。

地租改正とは、明治6年にそれまで村で納めていた税(物納)を土地の所有者(個人)が地価に応じて税(金納)を納めることにした税制改革。

政府はそのために土地の調査(地番・所有者・面積等)を全国的に実施した。



地番図 木知原版を「明治No. i」の今昔で紹介。これも宝物。この「地番図」を基に字切絵図を作成し地価評価額を算出した地券證を発行。

木知原地番図(字限図)

竹原

木知原の地番壹(一番地)

- 薄い和紙を何枚も貼り合わせた畳2枚ほどのサイズ。
- 長谷(竹原)地区は当時他郷の寄り合い地で画かれていない。
- 地番は門洞用水を最初に取り入れた水田を「地番壹」とした。
- 地番は点線の順に決められている。(現在の番地もほぼ同じ)

「番地」表記は明治19年頃から使われ始めたが位置を表すには「地番」が正しい。
≡ 土地か人間かの違い

- 地租改正は当初5ケ年計画でスタートしたが思う様には進まなかった。主な理由は、
 - ◇地価の3%の税額は換算すると江戸時代より重くなり反対の声が高まった。
 - ◇地価の算定方法に所有者の理解がなかなか得られなかった。
 - ◇税制への不満から全国各地で一揆がおき始めた。
- ◆明治9年に起きた三重県の一揆は瑞穂市の横屋まで広まった。(木知原の様子はわからない)



政府 は思わぬ抵抗にやむなく明治10年に税率を3%から 2.5%に引き下げざるを得なくなった。その世情を読んだのが「竹やりでドンと突き出す二分五厘」の川柳である。

◆当時の東京日日新聞には「ちよいと」であったが戦後三重県の農業史に「ドンと」と表記された以降は「ドンと突き出す」となったようである。(川柳は今も昔も世相の鏡: 日本独自の文化)